

編集後記

本年も無事に『川崎大師教学研究所紀要』第七号を発刊することができました。新型コロナウイルスは収束の兆しが見えません。世の中は徐々に新型コロナウイルスとの共存に舵を切り、研究活動の場でも少しずつ通常が戻りつつあります。新型コロナウイルスにより、オンラインツールが整備され、新たな共同研究のあり方が生み出されてきている一方で、対面による研究会の重要性が再認識されていると思います。また二月にはウクライナにおける戦争が始まり、国際研究の場にも影を落していると思います。そのような中でも、川崎大師教学研究所の活動が継続できていることに対して、関係各位に深く御礼申し上げます。今回の紀要には福田亮成先生（本研究所相談役）・元山公寿先生（大正大学元教授）の他、研究所内外の諸先生から投稿頂いております。また、今回も国際共著論文が一本掲載されております。

その国際共著論文ですが、第六号に引き続き、伊集院・加納・倉西・サントの四先生による『サマヨールガトラ』第五章一〜二〇偈の訳注研究が掲載されております。『サマヨールガ』の当該箇所の特ピックは、恐らくは仮面をつけて踊る演劇行為のようなものであったと考えられ、「宗

教と芸能」というテーマに新たな光を当てるものであると思います。日本においても仏の仮面をかぶる宗教行事がありますが、今後そのような行事との比較研究に及ぶ可能性を秘めております。

第七号も写本研究、翻刻研究といった基礎的な研究がメインとなっております。このような論文は、派手さはないものの、確実に未来の研究につながるものです。

昨年度に引き続き、南アジアから東アジアに展開した密教関係の基礎的な資料となる論文を多数掲載することができました。今後とも質の高い論文を提供することを目指していきたいと存じます。皆さまのご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。（種村隆元 記）

令和四年三月二十一日発行

川崎大師教学研究所 紀要（第7号）

発行 川崎大師教学研究所

発行者 廣 澤 隆 之

編集者 佐 藤 隆 一

〒二一〇〇八二二 神奈川県

川崎市川崎区東門前一〇九九

電話（〇四四）二九九一五二一

制作 図書出版（株）ノンブル社